

# 広島追悼画 10年かけ完結

画家MAYAさん(今治出身)

## 原爆の日実演制作

# 平和への祈り豪快に

平和への願いをキャンバスに。今治市出身の画家MAYA MAXX(マヤ・マックス)さんが2008年から原爆の日広島市で続けてきた10年計画の実演制作が今年8月6日、完結した。思いに共感した市民ら約150人が見守る中、MAYAさんは縦1・5m、横10mの巨大キャンバスに、平和への祈りをダイナミックに表現した。

画家の故岡本太郎さんが原爆さく裂の瞬間をテーマに制作し、東温市で修復作業をした巨大壁画「明日の神話」(幅30m、高さ5・5m)がきっかけ。広島市が修復後の作品を誘致していたが、東京都渋谷区への設置が決まり、「10年で計100mの絵を描き、明日の神話よりすごい作品を広島に」(MAYAさん)と、原爆の日にライブペインティング「Paint It, Peace」(ギャラリートG主催)



10年間の総仕上げに、平和への祈りを込めて絵を描くMAYA MAXXさん—6日午後、広島市

を行ってきた。

6日は同市中区の百貨店福屋八丁堀本店で開催。MAYAさんは、青色の絵の具や赤色のパステルなどを使って、動物などを表現。「事前に何を描くか決めていない。訪れて感じた広島霧囲気を表す」などと会場に語り掛けながら約1時間で描き上げた。

最後に「Thank you Hiroshima」と記したMAYAさん。「子どものころ、今治で広島について学び、人ごとと思えなかったから続けられた」と振り返った。炎天下の屋外や雨の中の制作もあり「被爆者のみ霊が『もうええよ』と言ってくれていると思う。これで最後と思うと寂しい」と名残惜しそうに話した。

10年連続で参加した被爆2世の立川千恵さん(59)は「広島市西区」は「MAYAさんの心意気を聞き、10年見届けようと目標を立てていた。いつも自由な表現の中に平和への思いが伝わってくる。広島をつないでくれているよううれしい」と話した。(河端渉)